

## 健康と観光のまちづくり「スマイル松山プロジェクト」始動！

-2015年「ICTスマートタウン」を目指して-

松山市 産業経済部観光・国際交流課

主査 中島 敏喜

## 1. はじめに

急速な少子高齢化の進行や人口減少社会の到来、地球規模での情報化の進展など、社会情勢が大きく変化している中において、松山市においても、人口減少等が今後さらに進むことによって、サービスの担い手や地域課題を解決する人的資源の縮小が深刻化してまいります。

そういった社会情勢下においては、少子高齢化、産業・雇用創出、防災対策といった地域が複合的に抱えている諸課題の解決にむけて、地域の特性に応じた戦略的なまちづくりの推進とともに、データの活用とそのためICT（情報通信技術）の活用を積極的に行い、効果的かつ効率的にまちづくりを推進するエンジンとして活用することは、これ以上人的・財政的負担を増やすことができない中で、非常に重要な要素となります。



スマイル松山プロジェクト イメージキャラクター 田澤 知子

## 2. 「住んでよし、訪れてよし」のまちの実現に向けて

松山市では、一人でも多くの方が笑顔で自分たちの住むまちに愛着や誇りを持ち、また、魅力にあふれ、市外の人からも「行ってみたい」「住みたい」と思われるまちを市民の皆さんと一緒に作りあげるため、「人が集い笑顔広がる幸せ実感都市 まつやま」を将来都市像に掲げ、平成25(2013)年度から平成34(2022)年度の10年を計画期間とする第6次総合計画を策定しました。

この総合計画において、「健やかで優しさのあるまち」、「地域の魅力・活力が溢れるまち」、「生活に安らぎのあるまち」を基本目標として掲げていますが、半径5km圏内に都市機能が集中し、路面電車等の公共交通機関が充実しているコンパクトシティであるとともに、毎年、人口の10倍を超える観光客が来訪する観光都市であるといった本市の特性を活かし、「ウォーキング（街歩き）」を軸に、①健康寿命の延伸、②街歩き観光、滞在型観光の推進、③大規模災害への基盤強化の3つの大きな課題解決に向けて、ICTを活用した街づくりに取り組むものです。

コンパクトで魅力溢れるまち松山を、住民が健康増進のために歩き、そして観光客が街を巡ることで、超高齢化社会における「住民の“健康長寿”」と外需獲得に向けた「観光客の“滞在促進”」の両立を図り、あわせて100年に1度のペースで発生するとされる南海トラフ地震をはじめとする災害に備える「安心・安全」な街づくりを一体的に推進することで、「住んでよし、訪れてよし」の活力溢れる都市としての持続的な発展を目指すものです。

## 【松山市の特徴】

## ■コンパクトシティ



歩く

## ■国際観光都市



巡る

▶住民と観光客向けにバランスの取れた街  
「住んでよし、訪れてよし」

松山市の特徴；コンパクトシティ（歩く）+国際観光都市（巡る）



「スマイル 松山」プロジェクト  
～1日1マイル歩こう 観光で笑顔になろう～

<p><b>【健康】</b></p>	<p><b>【観光】</b></p>	<p><b>【防災】</b></p>
<p><b>【健康ICT】</b> 健康状態の把握と改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● パーソナル・メディカル・チェック支援</li> <li>● 専門的な健康アドバイスの提供</li> <li>● ウォーキングマップをスマホ対応、既存ウォーキングイベント等と連携</li> </ul>	<p><b>【観光ICT】</b> 滞在型観光の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 利便性の高い観光情報の提供</li> <li>● 「街歩き」の活性（地元ガイドと連携）</li> <li>● 街歩きの健康価値を見える化（消費カロリー表示）</li> </ul>	<p><b>【防災ICT】</b> 防災基盤の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 健康・観光街歩きマップとあわせて防災マップを情報提供（平時）</li> <li>● 避難支援と安否・所在確認システム（緊急時）</li> </ul>

スマイル松山プロジェクト事業推進分野（健康・観光・防災）

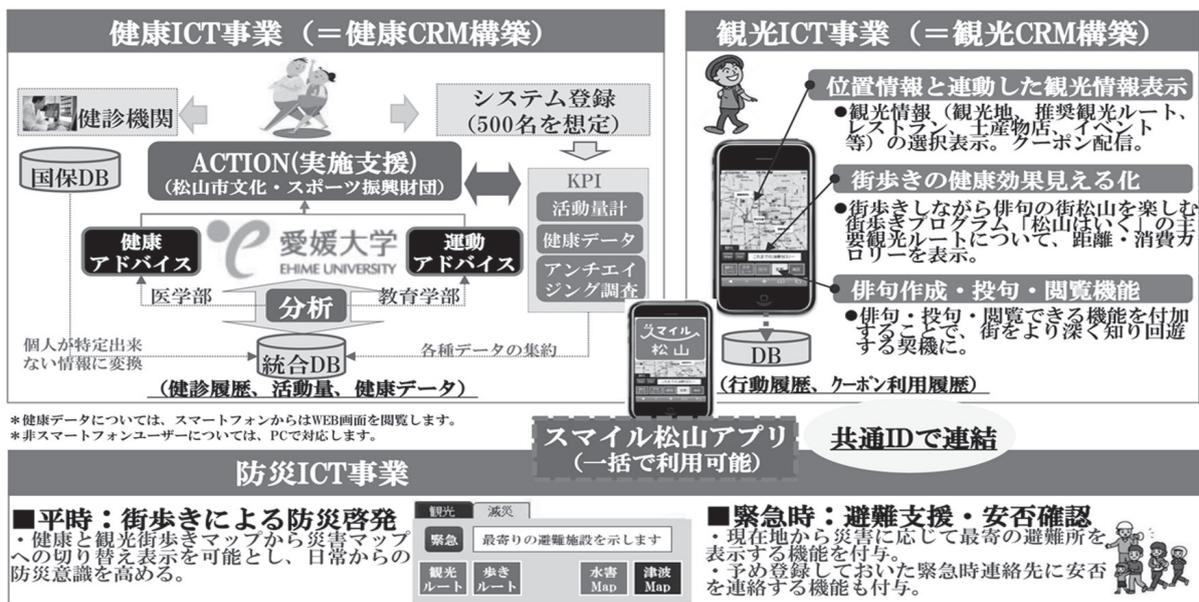
3. 産官学連携による ICT を活用したまちづくりモデル

スマイル松山プロジェクトの実施に向けて、松山市の街づくり戦略のもと、地元愛媛大学と民間企業で構成するコンソーシアムを組織して、産官学の地域連携調印書を平成25年7月25日に実施しました。

（コンソーシアムメンバー；松山市、国立大学法人愛媛大学、(株)電通西日本松山支社、(公財)松山市文化・

スポーツ振興財団、(株)大栄電機工業、(株)電通、(株)パイプドビッツ、イー・ビー・ヘルスケア (株)、(株)愛媛新聞社)

国の平成24年度補正予算 総務省 ICT 街づくり推進事業の採択を受けて、「1日1マイル歩こう観光で笑顔になろう」というスローガンのもとで推進する健康・観光のまちづくり「スマイル松山プロジェクト」では、住民



スマイル松山プロジェクト全体概要

が住みよい街づくりとともに、観光客にとって魅力ある街づくりを推進するため、コンパクトな街の特性を活かし、「ウォーキング（街歩き）」を軸にした①健康寿命の延伸、②街歩き観光、滞在型観光の推進、③大規模災害への基盤強化の課題に対応したICT事業を展開し、都市として持続的に発展するため、松山市と愛媛大学、そして民間事業者といった産官学が一体となって、課題解決型ICTまちづくりモデル構築に向けて取り組んでいる。

健康ICTでは、活動量・体重・血圧といったリアルタイムな日々の健康情報と、定期的に測定している健康診断結果から、住民一人一人の健康状態を把握するための基礎データを蓄積し、愛媛大学の医学部および教育学部の協力で、健康データ分析に基づくアドバイスの提供や、市有の体育施設等を管理する（公財）松山市文化・スポーツ振興財団の健康運動指導士による活動支援までを一元化し、体重・歩行数に加えて血液およびアンチエイジング調査などの数値の改善を図り、生活習慣病による健康リスク逓減を目指すものである。

モニター（500名）の公募を実施したところ474名の方から申込みがあり、H25年10月1日からH26年1月までの4カ月間に渡り、健康支援・記録ツール「スマイル松山 健康ナビ」を利用して、歩数などのデータを自動で転送できる活動量計を使って、専門家からのアドバイス等をうけながら、チャレンジコース（限定100名）と一般コースに分かれて歩行数の増加・体重の減少に向けてとトライアルをスタートしています。チャレンジコースでは、健康運動指導士による週1回の直接指導が受けられるとともに、一般コースを含めた参加者全員、期間中に開催される松山市主催のウォーキングイベント



10月26日（土）まつやまお城下ウォーク

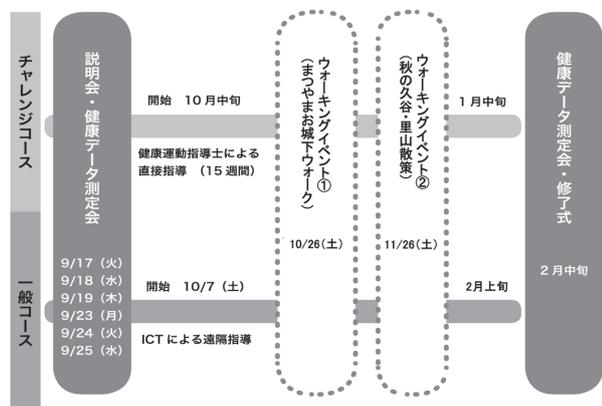
において、効果的なウォーキングを学ぶ機会を設けて、ウォーキングによる健康づくりを実践しています。

観光ICTでは、既に実施している有料のまち歩きガイド「松山はいく」およびFacebookやTwitterといったSNSによる情報発信「瀬戸内・松山食べ巡りプロジェクト」、インターネット俳句投稿サイト「俳句のまち松山 俳句ポスト365」と連携し、位置情報を活用したスマートフォンアプリを開発します。ニーズに合わせた観光情報の提供で、松山に対する観光客の認知・理解を深め、回遊・滞在時間の向上とあわせて再来訪へと繋げることとしています。

平時の健康、観光の街歩き地図から、緊急時の災害情報、避難支援情報がシームレスに切り替える機能を搭載し、予め観光・街歩きで利用できるアプリをダウンロードしておけば、住民も観光客も、緊急時の避難サポートを受けられる仕組みを構築しています。

防災ICTでは、平時に観光の街歩きとして利用しているアプリが、大規模災害がおこったときには、より迅速・安全に避難を誘導する防災機能の画面に切り替わり、地図上に最寄りの避難所や危険区域が表示され、事前に登録した家族などへ自分がいる位置情報を通知することができる現在地メールによって安否確認をスムーズに行える防災機能を利用することができます。日ごろの防災意識の醸成と、住民のみならず観光客にとっても「もしも」の時の避難に役立つ防災情報の提供を行うことができるものです。

これらのICTを活用した住民向け・観光客向けサービスの利用にあたっては、特別なデバイスを必要とせず、スマートフォンの無料アプリ等によって利用可能とするなど、利用者の利便性や導入コストの抑制に配慮すると



「スマイル松山 健康ナビ」H25 事業スケジュール（案）

ともに、健康 ICT・観光 ICT・防災 ICT のそれぞれにおいて、住民、観光客それぞれとの長期的な関係構築を前提に、ユーザーの情報管理とサポートまでの仕組みを一体的に構築することとしています。



松山市公式アプリ；スマイル松山 ハイク&安心ナビ

#### 4. 本事業がもたらすメリット

本事業を通じて、松山市の住民は、健康状態の把握と改善、街歩きによる街の魅力の再発見を、観光客は情報アクセスの改善による利便性の向上や街の魅力の深い理解が得られ、両者は共通して平時からの防災拠点・災害リスクの認知、緊急時の安全な避難というメリットを享受できることとなります。

松山市はこれにより、医療費の削減や観光客の滞在時間延長、選ばれる街づくりを実現し、あわせて緊急時に備えた防災意識の養成や災害時リスクの軽減を図ることができます。

これらのメリットは同様に、同じ課題を抱える全国の他の都市で展開する際にも等しく享受できるものと考えており、県下の市町をはじめとする他の都市においても展開できるプラットフォームとしての機能を構築するものです。



本事業がもたらすメリット

#### 5. 成功モデル確立に向けて

総務省は ICT を活用した新たな街づくりのモデル「ICT スマートタウン」の実現に向けて、2015年（H27）を目途に特徴ある地域における先行的なモデルを確立することとしており、本市が展開する「健康」「観光」「防災」の ICT を活用したまちづくり「スマイル松山プロジェクト」を国における先行的なモデルとして発展させるべく、H25年－H27年の3カ年継続事業として取り組む予定です。

1年目のデータ蓄積を踏まえ、2年目には事業拡大と観光商品の開発に着手し、3年目で健診指導を含む ICT による健康サポート、観光商品の発売、健康と防災事業における住民 ID との連携を目指すこととしているものです。本事業の来年度以降の継続性を担保すると共に、健康および観光・防災の仕組みとして構築する「スマイル松山プロジェクト」を先進モデルとして構築を目指して、コンソーシアムを構成する産官学のメンバーをはじめ地域一丸となった推進体制を構築し、松山発の地域課題解決型 ICT 事業として成功させ、健康の増進・高齢化への対応、交流人口の増加という多くの自治体が抱える課題解決に向けて全力で取り組んでまいります。



「スマイル松山プロジェクト」産官学・地域連携調印式

松山市 産業経済部観光・国際交流課  
TEL：089-948-6558  
担当：中島